

TORANOTEC

アクティブジャパン

第1回

運用報告会

レポート

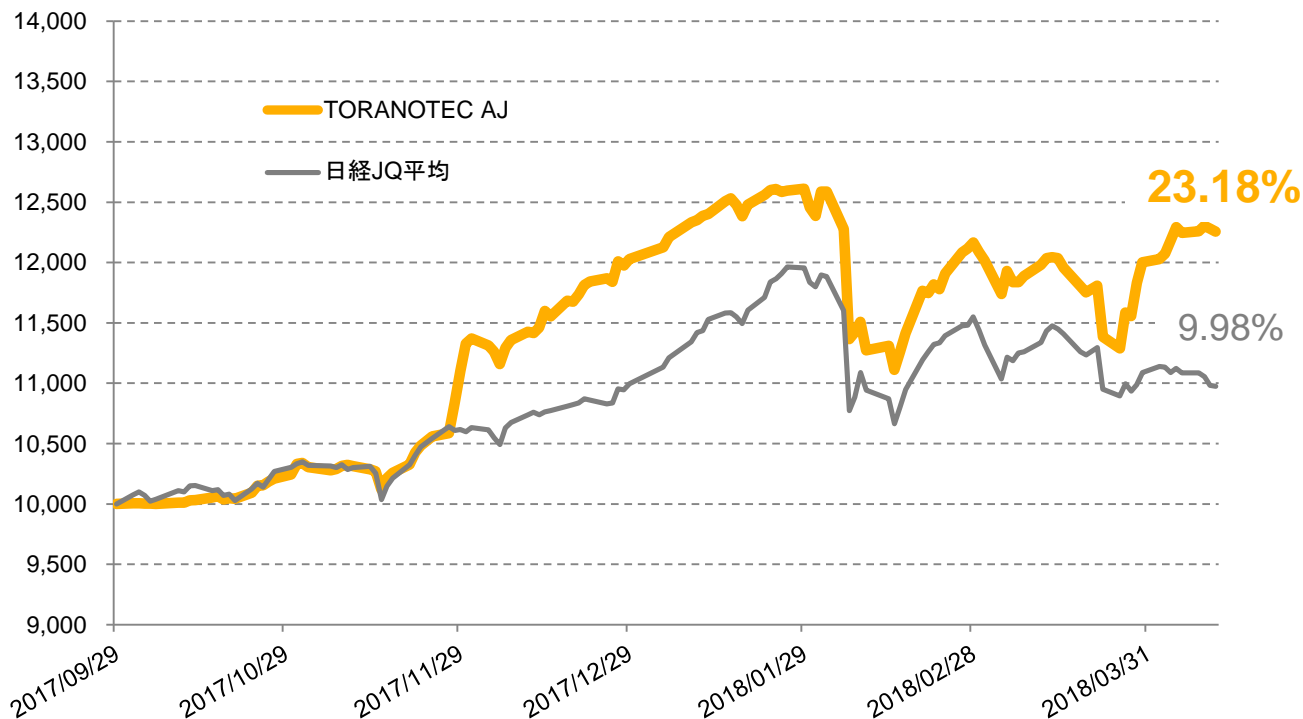
2018年4月14日、当社が運用する投資信託「TORANOTECアクティブジャパン」の第1回運用報告会を開催いたしました。当ファンドの運用責任者である黒田毅（P3写真）から、設定（2017年9月29日）から3月末までの半年間の振り返り、今後の見通しと運用方針についてお話しをさせていただきました。

半年間(2017年9月末～2018年3月末)の 振り返り

2017年9月29日の設定日を起点に日経平均株価が過去最長の16連騰(10/1～24日)するなど上昇基調を強めるなか、当ファンドはコツコツと時間・価格分散を行い、2018年1月末に株式組入比率を82.9%まで組入れました。2月以降の株式の乱高下の局面では基準価額の変動を少しでも抑えるべく株式組入比率を75%程度まで落とす場面もありましたが、3月28日には95%まで高めるなど臨機応変に対応いたしました。また、外需関連銘柄の比率を低下させる一方、内需関連銘柄の比率を高めるなどポートフォリオの見直しを行いました。

基準価額の推移

2018年4月13日基準



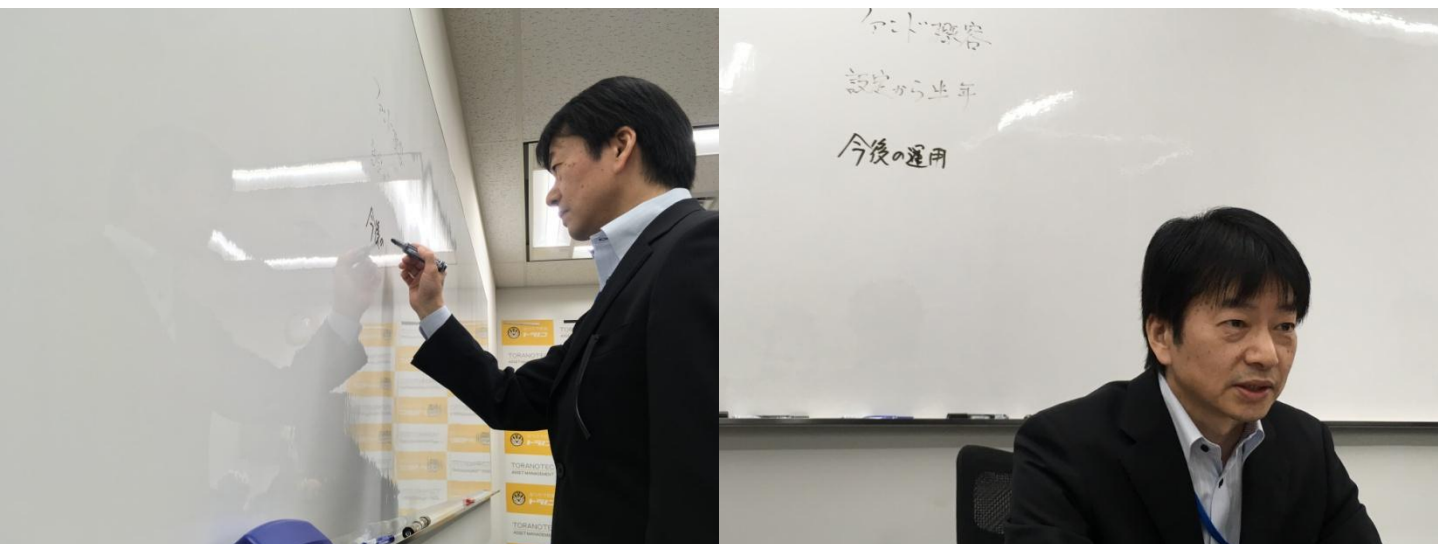
2017年9月29日を10,000として指数化 TORANOTEC投信投資顧問作成
※当ファンドはベンチマークを設定していませんが、参考指標として日経JASDAQ平均を記載しています

なお、当期間は新規公開(IPO)銘柄の売り出しに積極的に参加し、配分された銘柄がパフォーマンスに大きく貢献しました。

今後の見通し

株式市場は2月の株価急落以降、不安定な状態が続いています。米国の利上げペースや米中の貿易摩擦、地政学リスクなど先行き不透明感が強まるなか、4月下旬から3月期決算発表が本格化します。日本企業は必要以上に業績予想を保守的に出す傾向があり、足元の円高もあり、外需型企業は今期弱めの数字が予想されます。一方、内需型企業は堅調な収益予想が見込まれ、内需型企業に物色の矛先が向かうものと考えています。

中小型株は過去の実績で好パフォーマンスが示しているように今後も高い成長が期待できるものと考えています。内需関連の多い中小型株は外部環境の影響を受けにくく、独自の製品・技術・サービスに強みを持った企業や新業態を生み出すパワーを持ったベンチャー企業の出現など企業の成長とともに大きなリターンが得られるものと期待しています。今後、銘柄選別が運用成績を大きく左右することから有望銘柄の発掘に努めてまいります。



皆さまの財産づくりを長期投資でお手伝いさせていただきます。将来、皆さまに喜んでいただけるよう全力を尽くして運用してまいりますので、引き続きご愛顧くださいますようお願いもうしあげます。

2018年4月 黒田 毅

あわせてご覧ください

[TORANOTECアクティブジャパン 月報\(2018年3月30日基準\)](#)

■当資料は当該ファンドに関する運用状況の情報提供を目的として、TORANOTEC投信投資顧問が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できる公開情報に基づいて作成されたものですが、その情報の確実性あるいは完全性を保証するものではありません。また、当資料の運用実績・データ等は過去のものであり、将来の市場環境の変動やファンドの値動き等を保証するものではありません。当資料は事前の通知なしに内容を変更することがあります。■投資信託は、株式など値動きのある証券等に投資をしますので基準価額は変動し、また元本が保証されているものではありません。これらの運用による損益は全て投資家の皆様に帰属します。当ファンドのお申し込みの際には、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ、または同時にお渡しますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。